

東日本大震災 こころのケアチーム派遣 第3班報告

平成23年4月14日

山本哲也・越野仁美・野村祥平・府川良治

第3班 概要

- 派遣期間：
平成23年4月1日～6日
- 派遣場所：大船渡市
- メンバー
医師：山本哲也、
看護師：越野仁美
PSW：野村祥平
事務：府川良治



第3班到着時の大船渡市の状況

- 到着した4月1日には、津波被害の爪痕が色濃く残っていた。
- 電気・ガス・水道などのインフラもほとんど復旧していなかった。
- 地域の医療機関の一般診療や調剤薬局もほとんど再開していなかった。
- 一方で、様々な派遣医療チームが活動しており、こころのケアに特化した活動ができるようになっていた。

大船渡市の状況①

大船渡市の全景



市街地の様子



大船渡市の状況②

岸に乗り上げてしまった船



津波で流出した重油



第3班の活動状況

- 保健師チームからの報告をもとにした訪問診療・相談中心。
- 大船渡中を拠点に、大船渡北小・末崎中などの主要避難所の訪問。
- 4月3日より相模原市の心のケアチームに医師が加わったため、両者の担当地区を決めて訪問活動を行う。

第3班の活動地域

- 久里浜チームは大船渡中の避難所を拠点に大船渡・末崎・赤崎・蛸ノ浦地区を担当。
- 第2班が作成したところのケアチームの連絡先を保健チームに配り、担当地区の訪問活動を行っている保健師から電話での依頼を受けて訪問。



保健所でのミニレクチャー

- 山本医師によるミニレクチャー

『PTSDについて』

⇒大船渡保健所の朝のミーティングの前に保健師チームへミニレクチャーを行った。



児童に関するこころのケア

- 母親から児童に関する相談が多く、地域の児童家庭支援センタースタッフと連携して訪問。
- 心配する母親からの相談が多かったため、こころのケアチームでは医師を中心に母親へ心理教育を実施。
- その上で、継続支援は地域の児童家庭支援センターの職員に引き継いだ。

訪問風景



復興に向けた変化

- 4月4日より市街地における水道・ガス・電気などのインフラの復旧、無料バスの運行、飲食店などの再開、県立病院での一般診療開始、仮設住宅の本格的建設工事開始など被災地が復興に向けて大きく変化。
 - 4月11日にがれきの撤去を行うため、その前に自宅の整理に行く被災者が多くなった。
- ⇒なんらかの活動をする人が多く、日中避難所にいる人が少なくなった。

仮設住宅の建設風景



こころのケアに関する情勢

- 4月3日より相模原チームに精神科医が合流。当院と地区を分担して訪問。
- 4月4日より県立大船渡病院精神科の一般診療開始。
- 4月6日から沖縄チームが医師を含めて派遣。
- 4月5日・6日と精神保健福祉センターを中心に含めて業務の整理を行った。
- 心のケアチームが3チームになるため、地区割りを変更。久里浜は末崎・大船渡地区に変更。

まとめ

- 震災から3週間を超え、初期の急性期的な対応が少なくなった。
- 町全体が復興に向けて動き出し、多くの被災者が各々の活動を始めた。
⇒今後、復興がひと段落した時のこころのケアが重要。
- 一方で、震災前から抱えている家族の問題や精神障害などが、避難所生活という特殊な環境の中で顕在化する事例も多くあった。
- 派遣された医療チームが多くなり業務の整理が必要であるとともに、地域の医療・福祉機関が徐々に再開されつつあり、派遣された医療・保健・福祉チームから地域のレギュラーなサービスへの移行を検討する時期にあった。